

「教育実習を終えて」

[公立中学校 英語]

私の母校での3週間の教育実習は、不安や戸惑いから始まり、最後には充実感を感じさせてくれるものでした。また、初めて気づかされたこと、現場を目で見て肌で感じたことは私自身を大きく成長させてくれたものとなりました。

実習1週目は、指導教員の授業観察や子どもたちとの距離を縮めることが中心となりました。初日は何をどうすればいいのかもわからない状態で、生徒たちもいつもいない人がいる、と興味を持ってはくれますがなかなか積極的に関わってくる子どもはいませんでした。私自身、手探りではありましたが、初めの1週間は毎日クラスの全員に話しかけることを目標に積極的に子どもたちと関わろうと過ごしてきました。空き時間は他教科の授業も見学させていただいたり、放課後はクラブを見学させていただいたりするなど、子どもたちとできるだけ長い時間共にし、コミュニケーションをとることで少しずつ人間関係ができていったように感じます。また、1週目でどれだけ子どもたちと仲良くなれるかで翌週からの授業のしやすさが変わるというアドバイスもいただいたため、男女関係なく自ら話しかけに行くことを念頭に毎日を過ごしていました。

実習2週目からは、授業実習も始まり、慌ただしい日々になっていきました。授業は指導案さえあれば成り立つものではなく、授業プリントを作ったり、文法や内容の導入をどのようにするかなど、毎日が時間との戦いでした。授業実習を通して学んだことは、先生が一方的に話を進めるやり方だと生徒は退屈に感じ、面白みを感じられないということです。やはり、しっかり生徒と対話しながら先生よりも生徒が考えて答える時間を多くするくらいの勢いで授業をするべきだと感じました。実習中は、なかなか思うようにいかず心が折れそうになる場面がたくさんありました。しかし、真剣に授業を受けてくれる生徒や、「授業楽しかった」と声をかけてくれる生徒がいて、本当に何度も助けられました。実習を受け入れてくださった先生方、そして何よりも生徒たちに感謝の気持ちでいっぱいです。この実習で学んだたくさんのことを次のステップに活かしていきたいです。